

視覚障害者のための

iPad体験会 in 鳥取

日時：2012年5月12日（土） 13:00～16:00

場所：米子サン・アビリティーズ（〒683-0003 鳥取県米子市皆生3-16-20）



主催：弱視親子の会

氏間研究室（広島大学大学院教育学研究科特別支援教育学講座）

共催：広島大学大学院教育学研究科特別支援教育学講座

同上

附属特別支援教育実践センター

後援：広島大学大学院教育学研究科



サン・アビリティーズ

内容

第1部 基本操作



主催者の弱視親子の会会長 島津典子さんのあいさつ、氏間の趣旨説明の後、中学生参加者3名に自己紹介をしていただきました。

引き続き、第1部では「操作の基本」をテーマにiPadに触れました。はじめに、iPadを触察も併せて概観し、「ホームボタン」と「スリープボタン」の位置を確認しました。その後、

電源を入れて、「フリック」「タップ」などの基本操作、アプリの起動、終了の一連の操作を体験しました。アプリ操作では、電卓を用いて、タップの操作に慣れてもらいました。カメラアプリでは「ピンチアウト」「ピンチイン」の操作も体験しました。ホワイトボードでは指とスタイラスペンの両方を用いて書き、それぞれの特徴を体験しました。

第2部 アプリ操作



第2部は、模擬授業で利用するアプリも含め、いくつかのアプリを体験しました。ホワイトボードで書いてキャプチャし、写真アプリで確認する活動、カメラアプリで撮影した画像をPlayPaintで読み込んで文字や絵をかき込む活動、i文庫HDで電子教科書を読む活動、iDicで辞書

を引く活動と、カメラアプリを利用してiPadを拡大読書器として利用する活動を行いました。大人の参加者もとても積極的に参加していただき、様々なアイデアが飛び出しました。いきなり、「太鼓の達人」という音が流れ、笑いが起こるなど、熱意の中にも和やかさがありました。

第3部 模擬授業



第3部は、模擬授業を30分行いました。内容は光の性質です。氏間が大学1年生に行う授業の内容です。教師役の資料表示用と個人操作用のiPadの2台を各自に用意し、アームに固定しました。

光の性質3つのうち、2つ目までしかこなせませんでした

が、iPadを利用した授業を体験してもらい、子どもも大人も興味津々でiPad活用の応用に参加していただきました。

子どもからは「iPadがよく分かった」「光の屈折がよく分かった」との感想を得ました。

最後に島津さんのあいさつで終了しました。

まとめ

鳥取県・島根県から18名の方にお集まりいただきました。iPadに初めて触れる人が11名ということでした。それに関わらず、内容は理解でき、速度もちょうどよいという感想を参加者全員からいただきました。また、基本操作、アプリ操作、授業活用の3部構成のそれぞれの内容についても、内

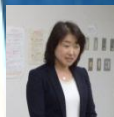
容の理解・速度の点で肯定的評価をいただきました。ある保護者からは「息子も弱視で22歳になりますがもっと早くiPadがあればよかった。」、販売店の方からは「具体的な方法を案内できます。」との感想をいただきました。子どもたちも「また参加したい」との感想をいただきました。

参加者

属性	人数
中学生	3名
保護者	3名
教員	8名
福祉関係	1名
ショップ	2名



記念写真



島津さん



資料